

第1回栄村むらづくり懇話会

—健康福祉部会—

【第1節 高齢者福祉】

- ・在宅介護を経験して感じることは、高齢者は介護保険制度や地域包括支援センターによって利用できるサービスがあることを知らないということ。ケアマネージャーが詳しく説明してくれるとありがたい。
- ・要介護から要支援に介護認定の変更あったが、急にケアマネージャーが訪問に来なくなると不安を感じる高齢者がいる。十分な説明をお願いしたい。
- ・「高齢者が自らの意思にそって、利用サービスを選択することができ、自立した生活が送られる支援が必要です」とあるが、利用できるサービスをそもそも知らないのが現状。周知することからはじめてほしい。
- ・村長の公約にもあるとおり買い物弱者に対する支援策を盛り込んでほしい。（担当外の施策となるため、世話人から関係部署へ要請する。）
- ・老人共同住宅の入居支援に取り組むとしているが見通しはいかがか。（日常生活ができることが条件であるため、事情のある場合を除いてあえて自宅を離れることを希望する高齢者は少ない。5部屋中2部屋は空室状態。）
- ・老人クラブの現状は若手が入会せず、会員は高齢化により参加できない人が増え、組織は弱っている。

【第2節 子ども福祉】

- ・子どもについて福祉と教育に部門が分かれている。どこに相談すればよいかわからない。窓口をひとつにするなど住民目線で利便性の向上を図ってほしい。

【第3節 ひとり親家庭福祉】

- ・栄村でひとり親は増えているか（保育園 28 世帯中 9 世帯がひとり親家庭）
- ・ひとり親といっても祖父母など周囲の協力がある環境なのか、本当にひとりだけで育てなければならないのかによって状況が違う。それに応じた施策をお願いしたい。

【第4章 障がい者福祉】

- ・すみれの家を利用するようになってから精神的に楽になった。それまでは家の中で抱え込みつらかった。周囲に不安など言えるようになれば楽になるのだが、その一歩が踏み出しにくい。感情としては障がいを知られたくないというのもあるが、周囲の偏見もある。その偏見を減らす活動を広め、施設利用がより身近になってほしい。
- ・障がいのある子どものサービスは中野市まで行かなければ受けられない。1時間預けるために往復に2時間かけるのは負担になる。新規に施設を作るのは難しいと思うが、普段から

関わってもらっている学童の支援の枠を広げるなど栄村なりの運用をお願いしたい。

・障がいのある人が就ける職がない。就職活動に数社回ったが、条件に合わないと断られる。短時間でよいので役場などに就ける職を置いてほしい。

【第5節 結婚対策】

・根本的な問題は少子化。どこで結婚しようが栄村に帰ってきて子育てをすることが重要。現状では収入が見込める職がなく、若者向けの住居もない。まずは子育てをする生活基盤づくりをお願いしたい。

【第6節 医療の確保】

・秋山地区は診療所から遠く、出張診療は週1回のみで利用は慢性的な患者に限られてしまう。実際には津南町や十日町など新潟県の病院を多く利用している。秋山地区の現状を文章に盛り込んでいただきたい。

【第7節 健康増進】

・精神保健については年に何回か相談会があり、助かったことがある。継続的に開催し、いろいろな人が利用できるようにしてほしい。保健師が声をかけてくれることも助かる。保健師が背中を押してくれると参加しやすいので、広報と声かけをお願いしたい。

・認知症高齢者の具体的な現状を記載して施策の展開につなげてほしい。

・秋山地区の高齢者はデイサービスも仕事があるから行かないというほど元気。

・検診は自分で申し込むより、村で受診する方が安い。もっと利用率が上がるとよい。

・各種検診を全員が受けるという共通認識ができるとすばらしい。

以上